

# 環境・安全レポート

(レスポンシブル・ケア活動報告)

2008 年版



株式会社 

三重工場

## 目次

1. ごあいさつ	2 頁	
2. 三重工場の概要	3 頁	
3. 環境保全活動		
(1) 環境方針	4 頁	
(2) 環境行動目標	4 頁	
4. 環境マネジメントシステムの状況		
(1) 環境管理推進組織	4 頁	
(2) 環境管理推進体制	(3) 環境教育	5 頁
(4) 環境会計	5 頁	
(5) グリーン購入	5・6 頁	
5. 環境パフォーマンス		
(1) 環境負荷のインプットの低減	6 頁	
(2) 環境負荷のアウトプットの低減	7 頁	
6. 安全衛生活動		
(1) 労働安全衛生方針	(2) 労働安全衛生活動目標	9 頁
(3) 安全衛生管理推進組織と体制	10 頁	
(4) 安全衛生教育	(5) 安全衛生活動の成果	10・11 頁
(6) 保安活動	11 頁	
7. 物流環境・安全活動	11 頁	
8. 社会貢献活動		
(1) 地域とのコミュニケーション	12 頁	
(2) 工場周辺の一斉清掃	13 頁	
アンケート	14 頁	

# 1. ごあいさつ

現在、我が国では「循環型社会」の形成に向けた取り組みを重点的に実施し、「持続的発展が可能な社会」を構築するための諸整備を進めています。2007年11月の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）による第4次評価報告書では、地球温暖化は確実に進行していることが報告されています。それに伴う異常気象の発生も見逃ごせない問題となっており、地球規模での環境保全への取り組みは加速度的に進んでいます。

弊社は、2006年5月株式会社ADEKAに社名を変更し、「**新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す**」、「**世界とともに生きる**」という経営理念のもと、環境保全と経済発展とを両立させるという命題に対して、全社的に取り組んできております。

当三重工場は昭和40年の開設以来、プラスチック用樹脂添加剤や情報化学品材料等を製造してきましたが、従来から「環境保全は工場の発展・存続のための最重要インフラ」と位置づけ、同業他社に先駆け環境保全の管理を向上させてきました。これを徹底させるための国際基準である「ISO 14001：環境マネジメントシステム」の認証登録を1996年12月に受け、2005年には2004年度版への移行を完了しました。また、安全対策も環境保全同様に重要との認識の下に、「OHSAS 18001：労働安全衛生マネジメントシステム」の適合証明を2000年9月に受け、2008年8月には2007年度版への移行を行いました。

当社の需要家、株主、地域住民の方々、また工場で働く従業員にとって、安全であり且つ信頼される工場であり続けられるように、今後とも工場労使一体となって更なる改善・改革に取り組んでいく考えです。

本報告書は、2007年度の当三重工場の安全・環境に対する取り組みとその成果を集大成したものです。2007年度は、環境面では①公害と苦情の撲滅、②省エネルギーの推進、③廃棄物削減、④グリーン調達を推進を目標として掲げ、一部の未達成はあったものの、全体的には後述の通り相応の成果を収めることができました。また安全面では、労働災害と通勤途上災害を0件とすることを目標として掲げ、協力会社で1件の休業災害と1件の不休災害は発生したものの、ADEKA従業員に関しては微傷災害1件の発生に留まりました。環境面・安全面ともに、未達成の項目に関しては今後の検討課題として取り組んでいく所存です。2007年度の重大トピックスとして、7月23日に三重工場に隣接する合弁企業のオキシラン化学三重工場で、設備の破裂・火災事故が発生致しました。近隣住民の皆様方をはじめとして、多くの方々に多大なるご迷惑とご心配をおかけしたことを改めて深くお詫び申し上げます。再発防止に万全を期し、今後二度とこのような事故を起こさないよう努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。2008年度は2007年度の結果を踏まえた上で、前年度以上に継続的な改善・改革に邁進していく予定であり、中でも地球温暖化対策として炭酸ガスの発生削減に積極的に取り組んでいきます。

当三重工場は、地域に根ざした市民企業として、行政や地域社会とのパートナーシップの強化にさらに努め、あらゆる機会を通じ地域の発展と環境保全に尽力し、「環境調和型企业」の実現に向けあらゆる努力をしていきます。

当三重工場の環境保全・安全対策の諸活動を皆様にご理解頂くと共に、皆様からのご意見・ご指導をいただければ幸いです。

2008年10月

株式会社 

三重工場長

古川 豊

## 2. 三重工場の概要

### 【沿革・事業内容・工場運営】

株式会社ADEKA三重工場は樹脂添加剤、情報化学品材料等の製造を行っています。当工場は、樹脂添加剤の一つである塩化ビニル用安定剤製造のため、1965年(昭和40年)にアデカ・アーガス化学株式会社三重工場として開設し、1990年(平成2年)に旭電化工業株式会社と合併し、旭電化工業株式会社三重工場となりました。旭電化工業株式会社は、2006年(平成18年)5月1日に社名を株式会社ADEKAと変更し、新たな一歩を踏み出しました。

三重工場は三重県桑名市郊外の多度山麓の田園地帯にあり、塩化ビニル用安定剤、塩化ビニル・ゴム用可塑剤、ポリオレフィン用抗酸化剤、光安定剤などの樹脂添加剤、感熱紙用添加剤、液晶パネル用画像材料、DVD用光記録色素などの情報化学関係の材料を製造しているファインケミカルの工場です。

緑豊かな田園地帯に立地することから、工場開設時より環境に配慮した活動を進めてきました。より一層環境に優しい工場を目指し1996年(平成8年)12月に国際環境マネジメントシステムISO 14001を認証取得し、これにより活動を展開しています。

労働安全衛生管理は従来の活動をマネジメントシステムにまとめ、BS 8800を基本とした労働安全衛生マネジメントシステム、OHSMSの適合証明を2000年(平成12年)9月に財団法人日本品質保証機構(JQA)より受け活動してきましたが、2001年(平成13年)9月にOHSAS 18001への移行を行いました。

品質管理についても1993年(平成5年)5月に国際品質管理システムISO 9002を認証取得しました。規格の改正により2002年(平成14年)7月にISO 9001(2000年度版)への移行を完了し、これにより管理しています。

また、TPM活動にも取り組み1989年(平成元年)TPM優秀賞第Ⅱ類、その後1995年(平成7年)にTPM優秀賞第Ⅰ類を受賞しました。三重工場は5S活動の基礎の上に環境、安全・衛生、品質の3本のマネジメントシステムを確立し、地域住民、顧客、働く人たちに安心を与える、磐石な体制で運営を行っています。また、2006年(平成18年)の初めからはMPI-200という人材育成と同時に生産性向上を目指す独自の活動を展開しております。さらに、海外の関連会社や工場の技術指導・援助等の技術センターとしての役割も果たしています。



1965年(昭和40年)工場開設時の全景

### 【工場概要】

開設	1965年(昭和40年)10月
敷地	118,331㎡(約35,800坪)
従業員	193名(嘱託5名を含む) 2008年8月1日現在
常駐協力会社:	114名(ADEKA総合設備、ADEKA物流、三重加工サービス)
組織	3部12課
勤務形態	日勤、2班2交代、4班3交代

### 3. 環境保全活動

#### (1) 環境方針

三重工場では下記の環境方針を策定し、方針に従って活動しています。

#### 三重工場環境方針

##### <理念>

(株) ADEKA 三重工場は、自然豊かな地域に立地している化学工場であることを認識し、環境保全への取り組みを工場運営の最重要課題のひとつと位置づけ、環境と調和した活動を推進し、環境にやさしい工場作りを目指します。

##### <方針>

- 法規制の遵守と継続的改善  
環境に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守すると共に、技術的・経済的に可能な範囲で環境保全の継続的改善に努めます。
- 環境負荷の低減  
工場活動が環境に及ぼす影響を捉え、持続可能な目的・目標を設定し廃棄物・エネルギー等の環境負荷の低減に努めます。
- 環境保全意識の高揚  
環境教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が環境保全意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。
- 対外連携の促進  
地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。

2008年 4月 1日

株式会社 ADEKA 三重工場長 古川 豊

#### (2) 環境行動目標

2007年度は「地球環境保全の強化」を目的として、次の目標を掲げ活動してきました。

##### 目標

##### 1. 環境保全

- ① 廃水・廃棄物トラブルの低減
- ② 化学物質の自主管理の強化
- ③ 有害化学物質の実態把握 (PRTR 法) と削減施策の検討
- ④ ゼロエミッションの推進と環境負荷物質の低減
- ⑤ 海外工場のレベルアップ支援

##### 2. 継続的管理目標

- ① 公害・苦情の発生 0件
- ② 省エネルギーの推進 原単位比で対前年 1%改善
- ③ 産業廃棄物削減(添加剤工程) 原単位比で対前期 2%改善
- ④ グリーン調達推進 指定 38 品目で 80%達成
- ⑤ ゼロエミッションの推進 前年実績 2.8%を 2.3%に削減

### 4. 環境マネジメントシステムの状況

#### (1) 環境管理推進組織

三重工場では、早くから環境管理に取り組み、1996年には国際規格 ISO 14001 の認証を取得し、環境マネジメントシステムを導入しています。2005年度には ISO 14001 : 2004 年度版に更新しています。このシステムでは常駐協力会社を含む全ての部門及び階層の役割、責任、権限について明確に規定しています。

(2) 環境管理推進体制

工場長は、組織と教育を維持管理するために必要な環境を整備するとともに、必要な資源(人、技術・技能、資金)を用意する責任を負っています。環境管理に関する意思決定機関として全部署の代表者で構成する安全・環境管理委員会を設置し、管理を推進しています。

(3) 環境教育

環境マネジメントシステムで定める役割、責任、権限を遂行するために、組織のために働く全ての人々に対して、環境マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図ります。全員のレベル向上と環境の継続的改善を進めるための教育訓練計画を全ての部署で作成し、それに則り教育訓練を行っています。また、公的資格の取得にも努め、多数の資格を取得しています。表-1に主たる資格の取得者一覧を示しました。

表-1 主たる資格の取得者一覧表 2008年8月末現在

資格名称	人数	資格名称	人数
環境計量士	1名	第一種衛生管理者	3名
1級ボイラー技士	11名	2級ボイラー技士	13名
ボイラー整備士	9名	作業環境測定士	1名
公害防止管理者 大気1種	4名	電気主任技術者 3種	1名
公害防止管理者 大気2種	5名	保全技能士 1級	1名
公害防止管理者 水質1種	11名	保全技能士 2級	31名
公害防止管理者 水質2種	4名	エネルギー管理士	3名
酸素欠乏作業主任者	150名	フォークリフト免許取得者	170名
危険物取扱者 甲種	36名	クレーン運転業務特別教育修了者	108名
危険物取扱者 乙種4類	141名	監督者教育	31名
危険物取扱者 乙種4類以外	18名	職長等安全衛生教育	7名
消防設備士 乙種1類	1名	消防設備士 乙種2類	1名
消防設備士 乙種6類	2名		
有機溶剤作業主任者技能講習修了者	147名		
特定化学物質等作業主任者技能講習修了者	137名	第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習修了者	77名
特別管理産業廃棄物管理責任者講習修了者	2名	乾燥設備作業主任者技能講習修了者	40名
廃棄物中間処理施設技術管理者	4名	廃棄物焼却施設技術管理者	3名

(4) 環境会計

2007年度の設備投資は大型設備投資がなく、前年度よりも減少しましたが、環境設備投資額は、公害防止への投資が増加したため前年度より増加しました。また、省エネルギー効果は前年度より減少しましたが、原材料削減効果はこまめな努力により、増加しました。

表-2 環境会計 単位 千円

	2006年度	2007年度
期間中の総設備投資額	2,913,931	1,556,797
期間中の環境設備投資額	100,313	164,246
期間中の省エネルギー効果	12,360	11,959
期間中の原材料削減効果	3,876	5,750

(5) グリーン購入

三重工場で使用する文具427品目の内、エコ商品が市販されているのは337品目で、

市販されている物は全てエコ商品に切り替えました。文具以外の事務用品 76 品目については 64 品目をエコ商品に切り替えました。残り 12 品目についても、順次切り替えを促進していきます。

## 5. 環境パフォーマンス（環境保全への取り組みと改善状況）

表-3 インプットとアウトプットのまとめ

INPUT					
【エネルギー】					
電力(原油換算)	4,263kℓ	蒸気(原油換算)	3,225kℓ	廃油焼却(原油換算)	994kℓ
対前年比(%)	+11.6		+11.1		+7.5
【水】					
地下水汲み上げ量	1,754t				
対前年比(%)	-7.1				
OUTPUT					
【大気】					
CO <sub>2</sub> 発生量	16,587t	NO <sub>x</sub> 排出量	11.3t	NO <sub>x</sub> 排出濃度	46ppm
対前年比(%)	+10.7		-16.3		-2.1
【化学物質】					
PRTR 物質排出量	0.15t	廃棄物への移動量	16.57t		
対前年比(%)	+7.1		+9.0		
【水域】					
COD 排出量	0.11t	BOD 排出量	1.4t	水の循環量	911t
対前年比(%)	-33.3		-54.8		+2.0
【廃棄物】					
外部委託量	3,794t	最終埋め立て量	123t	ゼロエミ比率	3.24%
対前年比(%)	-20.1		-10.9		+11.3

### (1) 環境負荷のインプットの低減

#### 1) エネルギー使用量

工場で使用するエネルギーは、原材料の加熱等に使用する蒸気を発生するために使用する都市ガスと、動力・照明に使用する電力に分けられます。2007 年度のエネルギー使用量は 2006 年度に比較し、都市ガス使用量と電力を原油に換算した値で燃料では 11.1%、電力では 11.6%の増加となり、結果として製品 1 ト当りのエネルギー使用量（原単位）は 0.054t/t=12.3%の増加となりました。要因としては情報化学品の新プラント稼働によるもので、次年度からの省エネが大きな課題です。

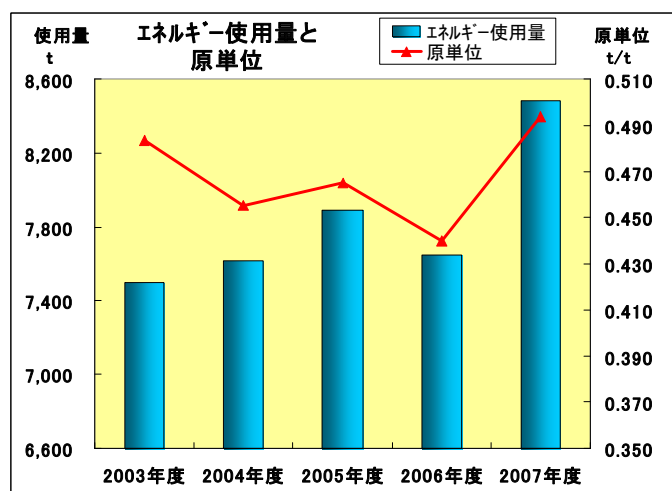


図-1 エネルギー使用量と原単位

#### 2) 地下水使用量

三重工場では飲料水を含め構内で使用する水は全て地下水により賅っています。工場構内に掘られた井戸から汲み上げられた地下水は、各工程で使用された後、工場から排出されています。地下水を有効に利用するため、冷却塔で冷却し、再利用を図っています。

2007 年度は汲み上げ量、製品 1 ト当たりの使用量（原単位）ともに 2006 年度より削減することができました。

表-4 地下水くみ上げ量と原単位

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
地下水汲み上げ量(t)	1,625	1,747	1,615	1,888	1,754
原単位	104.80	104.42	95.25	108.60	102.08

(2) 環境負荷のアウトプットの低減

1) 大気への排出量

① CO<sub>2</sub>発生量

三重工場では前述のように、生産活動に多くのエネルギーを使用しています。エネルギーを使用することにより、CO<sub>2</sub>が発生します。CO<sub>2</sub>の発生量は購入電力を含んだエネルギーの使用量に比例しています。2004年度に蒸気ボイラーの燃料転換により、CO<sub>2</sub>発生量・原単位ともに大幅に削減することができましたが、2007年度は前年に比べ、エネルギー使用量が増大したこともあり、CO<sub>2</sub>の発生量・原単位ともに増加しました。

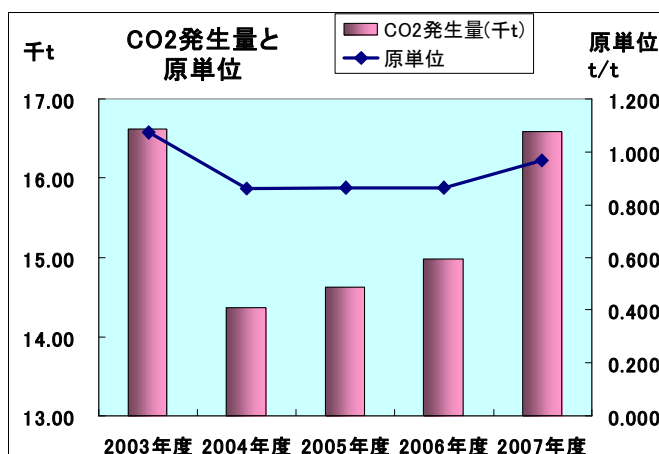


図-2 CO<sub>2</sub>発生量と原単位

② NO<sub>x</sub>排出量

三重工場では、プロセスの熱源として蒸気を必要とするため、ボイラーを設置しています。2004年度以降はボイラーの燃料転換により、SO<sub>x</sub>の排出はなくなり、NO<sub>x</sub>の排出量総量もそれ以前に比較して減少しています。2005年度は、若干増加しましたが、2006年度、2007年度と連続して減少しています。NO<sub>x</sub>の排出濃度の実測値は横這いですが規制値150ppmを十分に下回っています。

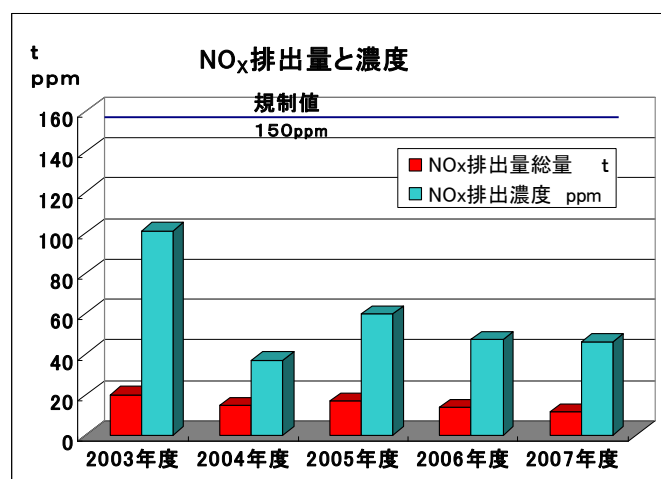


図-3 NO<sub>x</sub>排出量と排出濃度

2) 有害化学物質の排出・移動

三重工場では原料として多くの化学物質を使用しています。製品の多様化により、原料の種類も増加しており、国の定めるPRTR法の対象となる第一種指定化学物質の内、年間取扱量が1トンを越える品目の数は2007年度では17物質となっています。その取扱量について2007年度は2006年度に比較して減少しました。今後も取扱量の削減に努力していきます。排出・移動量については、排出量の抑制に努めてきましたが、2007年度は約151kgと2006年度に比較して15kgの増加となり、移動量は2006年度に比較して0.8tの増加となりました。

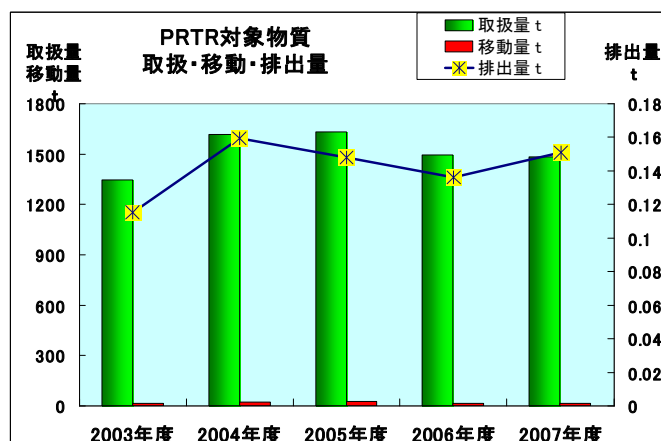


図-4 PRTR対象物質取扱・移動・排出量

### 3) 水域への排出量と推移

工場の製造工程からは1日に約300トンの廃水が発生します。廃水は活性汚泥処理を行った後、公共水域へ排出していましたが、2008年2月より一部の排水については公共下水への放流を開始しました。2008年度中には雨水・冷却水を除いて全量を公共下水に投棄する計画となっています。排水については工程改善や設備改善を進め、環境負荷の低減に努めています。工場外への排出水中の化学的酸素要求量(COD)の推移を右の表に示しました。COD発生量・濃度とも年々低下傾向にあります。

排出水の水質はCOD以外に、浮遊固形物(SS)、生物化学的酸素要求量(BOD)、水素イオン濃度(PH)等が法で定められています。何れの項目についても、法で定められた規制値より厳しい自主規制値で管理しています。

さらに2004年4月より実施されている第5次水質総量規制で強化された窒素、リンの規制値に対してもクリアできる水質を確保しています。

### 4) 産業廃棄物

生産工程からは各種の産業廃棄物が発生します。2006年度から廃棄物のより多く発生する高機能製品に的を絞った廃棄物削減活動を展開した結果、2007年度は前年に比べ、製品1トン当りの発生量(廃棄物原単位)を減少させることができました。

産業廃棄物の内、利用できるものを再利用し、資源の有効利用に努めています。表-5は各工程で発生した廃棄物を焼却した熱を利用して発生した蒸気量を示します。2007年度は廃棄物量自体が減少したことにより、リサイクルによる蒸気発生量は減少しました。しかし、それでも蒸気使用量の20%をサーマルリサイクル(熱回収)により賅っています。

表-5 産廃炉の蒸気発生量と熱回収率

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
蒸気発生量 t	11,473	15,125	16,101	16,455	14,632
蒸気使用量 t	46,481	50,501	52,251	70,068	70,521
熱回収率(%)	24.7	29.9	30.8	23.5	20.7

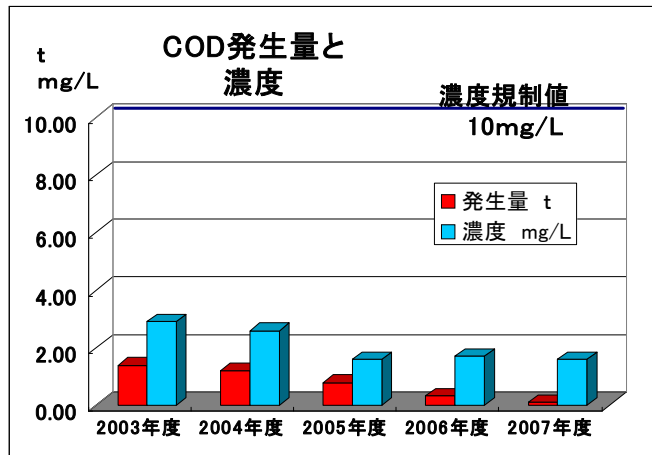


図-5 COD発生量と濃度

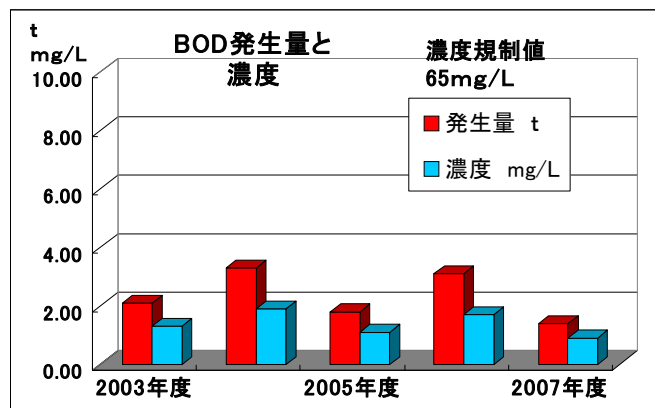


図-6 BOD発生量と濃度

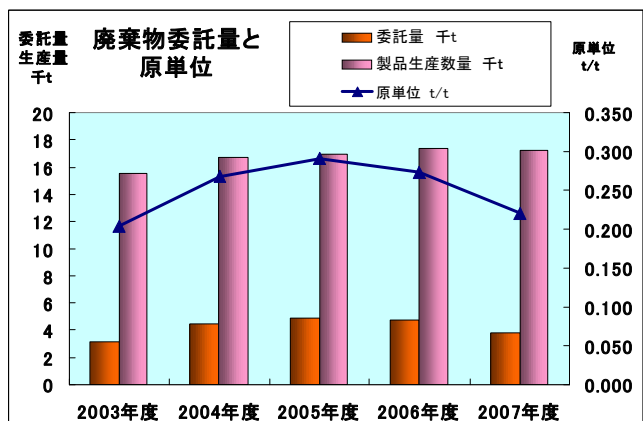


図-7 廃棄物発生量と原単位

産業廃棄物のゼロエミッションに向けた取り組みは、ADEKA 全社として 2010 年度に、最終埋め立て量を外部委託量の 1%未満にすべく、埋め立て量の削減を進めています。最終埋め立て量の外部委託量に対する比率（ゼロエミ比率）は 2007 年度で 3.2%となり、前年度に比較し 0.3%の増加となりました。埋め立て量自体は減っていますが、外部委託量も減少したために比率としては上昇しました。埋め立て量削減に向けた活動を展開し、2010 年度にゼロエミッション達成を目指します。

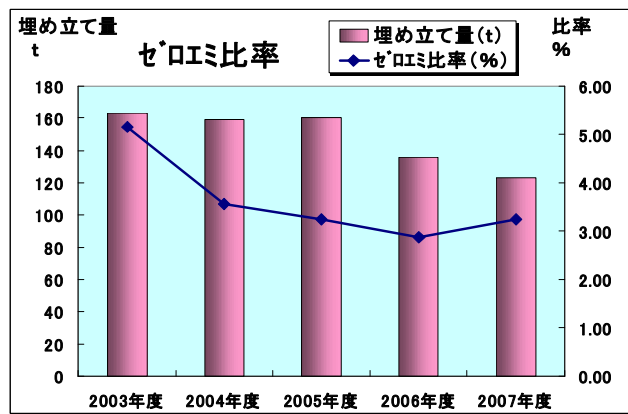


図-8 ゼロエミ比率

## 6. 安全衛生活動

### (1) 労働安全衛生方針

**三重工場労働安全衛生方針**

**<理念>**  
 (株) ADEKA 三重工場は、社会の一員として労働安全衛生が工場活動の基盤であることを認識し、安全で快適な職場作りを推進すると共に、社会に安心と信頼を与える工場作りを目指します。

**<方針>**

- 法規制の遵守  
労働安全衛生に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守します。
- 安全・健康の確保  
取り扱い物質および設備の性質を把握し、取り扱い方法・設備の適正な管理を実施し、傷害及び疾病を予防します。適正な目標を定め、作業環境並びに労働安全衛生パフォーマンスの継続的改善に取り組みます。
- 労働安全衛生意識の高揚  
教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が労働安全衛生意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。労働安全衛生目標を設定し、目標を実行するための方向性を示します。
- 対外連携の促進  
地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。

2008年 4月 1日

株式会社 ADEKA 三重工場長 古川 豊

### (2) 労働安全衛生活動目標

**目標**

1. 労働安全・保安防災の先取管理の強化

- ① 非常作業のリスクアセスメントと対策の実行
- ② 安全協力会活動の工場内の履行徹底と物流事故の防止
- ③ リスクアセスメントによる災害再発防止対策の有効性の確認と確実な実施
- ④ 若年者層への体験学習教育と緊急措置訓練実施
- ⑤ 緊急時の保安体制の確保
- ⑥ 安全保安技術の継承

## 2. 継続的管理目標

① ヒヤリハット報告	500件以上	② STOP-MIE	150件以上
③ 危険予知	1500件以上		
④ 安全提案	500件以上	(内、安全改善)	400件以上
⑤ 安全ワンポイント	200件以上		

### (3) 安全衛生管理推進組織と体制

安全衛生管理は、労使で構成する安全衛生委員会および安全管理責任者を長とする安全管理委員会の両輪で推進しています。構内常駐協力会社も安全管理委員会の構成員として足並みを揃えた活動を行っています。

### (4) 安全衛生教育

労働安全衛生マネジメントシステムでは、工場のすべての部門及び階層の役割、責任、権限について明確に規定しています。この役割、責任、権限を遂行するために全ての従業員に労働安全衛生マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図り、必要な資格等の取得を進めています。その方策として、各部署で教育・訓練計画を作成し、それに則り教育・訓練を行っています。

### (5) 安全衛生活動の成果

#### 1) 2007年度の安全活動

##### 【なぜなぜ分析】

三重工場では従来からヒヤリハット活動を展開し、災害発生防止に努めてきました。2007年度はヒヤリハット活動において、工場内で回覧するBランクのヒヤリハットに関して、「なぜなぜ分析」による解析手法を取り入れました。真の原因追求による対策立案の手法をヒヤリハットまで広げたことが、災害防止に役立っています。

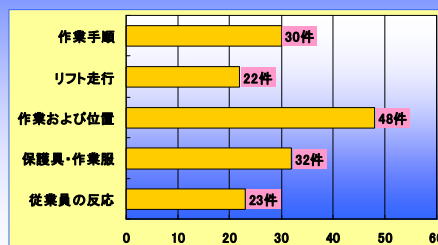
##### 【STOP-MIE 活動】

STOP-MIE は三重工場独自の安全活動で、デュポン社の開発したシステムを当工場のレベルにアレンジした活動です。

- 視覚だけでなく停止して五感で観察。不安全行動を見つけたときはその場で是正。
- 不安全行動を取った理由を聴取。不安全行動によりどのような災害を引き起こすかを説明し理解させる。

#### STOP-MIE 2007年上期

目的:潜在的な危険の洗い出しを行い、不安全行動を是正し安全行動パターンに変えていく事を目的とする。



「現場」に出て、「現物」を見て、「現実」に接する → 「三現主義」

#### 2) 安全成績

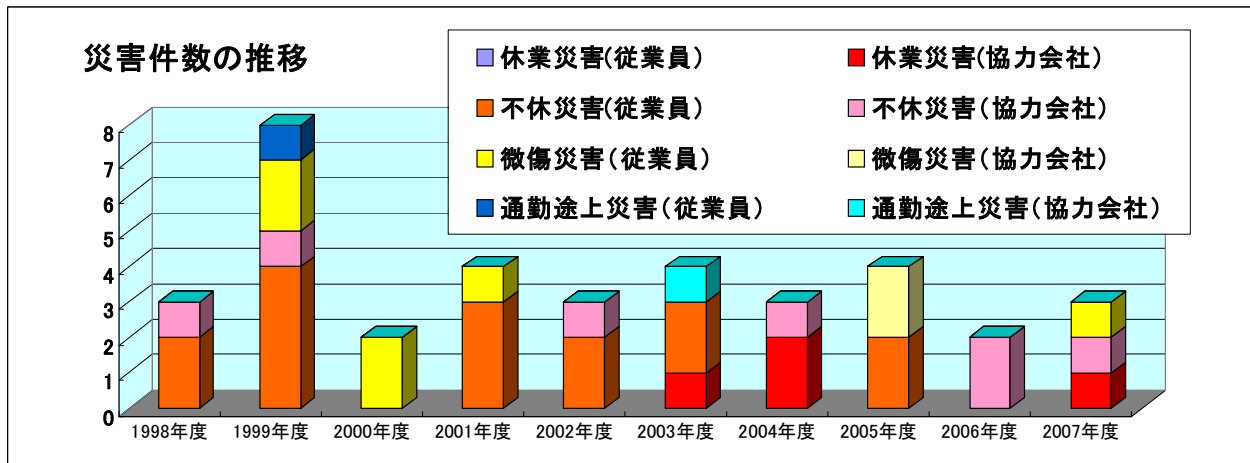


図-9 災害件数の推移

2007年度は災害ゼロの目標に対し、休業・不休・微傷災害が各1件発生しました。この災害はいずれも工程運転中の重大な災害ではなく、極軽微なものでしたが、災害発生の件数自体は減っておらず、その後の再発防止に万全を期して安全活動を展開しています。

## (6) 保安活動

### 【緊急事態への対応】

地震などの天災による、不慮の事故の発生に対して、企業は緊急時の手段を明確にしておかなければなりません。私達三重工場も当然のことながら、緊急時の対処について、基準、標準等に規定して対策をしています。火災やガス洩れなどの緊急事態に対しては、初期段階で検知し警報を発するシステムを備えています。

さらに、発生部署での初期緊急対処の体制と、工場全体での緊急時のために組織された保安出動隊が出動する体制を敷いています。

初期緊急対処と保安出動隊の要員は消防操法救急救命等、十分に訓練され、経験のある従業員で構成されています。

2007年度はオキシラン化学の事故後の操業再開にあたり、地震発生を想定した総合防災訓練を桑名消防本部（東員分署）と合同で実施しました。



## 7. 物流環境安全活動

生産活動での環境・安全活動と同様に物流部門でも環境・安全活動に取り組んでいます。運送会社の協力を得てアイドリングストップ活動に取り組み、環境保全に努めています。当工場の製品の多くは消防法の危険物に当ることから、万が一の輸送中の事故に備え携行しているイエローカードに基づく通報訓練を定期的に工場と運送会社が連携して行っています。

また、製品を安全にお客様の元へお届けするには、交通事故の防止にも努めることも重要で、運送会社単位で自動車事故対策センターの適性診断を受けるなど、交通事故防止にも取り組んでいます。

## アイドリング STOP!

環境保全活動を実施しています。  
次の事項を守って、環境保全活動にご協力をお願いします。

- ◎入門手続き後は、速やかに荷降ろし場所へ移動願います。
- ◎移動の際は、空ふかし・急発進・急ブレーキを避けて下さい。
- ◎荷降ろし場所へ着いたら速やかにエンジンを停止願います。



株式会社 ADEKA  
三重工場 製造管理課  
ADEKA 物流株式会社

## 8. 社会貢献活動

### (1) 地域とのコミュニケーション

#### 1) 施設の開放

私たちは、地域との関わりを大切にしています。文教面では工場のテニスコート、野球場を開放しており、特に野球においては地元のスポーツ少年団のチームの育成などに活用していただいています。また、地域の商工会活動などへ積極的に参加し、指導的役割を果たしています。



#### 2) 勤労体験学習

2007年度は11月14～16日に地元中学校の要請で、3名の中学生の勤労体験学習を実施しました。



#### 3) 地域ボランティア

三重工場では、毎週月曜日の朝に地元団地内の交差点二箇所、小中学校の生徒に対して交通指導を実施しています。



## (2) 工場周辺の一斉清掃


6月12日に、工場外の公道の両側の清掃を東西の外周に沿って例年通り実施しました。缶等を捨てる人が少なくなり、回収量も年々減少傾向にあります。2007年度は可燃物2袋、空缶、不燃物1袋を回収しました。この活動は今後も引き続き実施していきます。



この環境・安全レポートに関する質問、ご意見は下記の窓口へお願いします。

作成 株式会社ADEKA 三重工場 環境・安全管理委員会事務局  
確認 株式会社ADEKA 三重工場 環境・安全管理責任者 高巢澄亮  
窓口 株式会社ADEKA 三重工場業務部業務課長 水谷和年  
住所 〒511-0251 三重県員弁郡東員町山田 3707 番地の1

TEL 0594-76-2330(代) FAX 0594-76-3011

株式会社  三重工場 業務部業務課 行 TEL 0594-76-2330 FAX 0594-76-3011

## ご意見をお聞かせください

私たちは地球環境の保全と労働安全衛生に積極的に取り組んでおります。  
今回、2007年度の環境・安全レポートを発行いたしました。未だ不十分な面が多々あるか  
と思います。

皆様より頂いたご意見、感想を参考とさせて頂き、より良い活動を進めたいと考えています。  
皆様の忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

株式会社 **ADEKA** 三重工場  
環境・安全管理委員会事務局

- 1 この環境・安全レポートの記載項目はいかがですか。  
a. 物足りない    b. 普通    c. 充実している    d. その他(                    )
- 2 この環境・安全レポートの記載内容はいかがですか。  
a. 理解できない    b. 普通    c. よく理解できた    d. その他(                    )
- 3 ご意見、ご感想をお願いします。

※お名前、ご住所等は個人情報に関わるものであり、記入は不要です。

ご勤務先 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_

連絡先ご住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_ FAX 番号 \_\_\_\_\_